

## 武内工業所の 社内研修旅行

2月17日から20日まで、20年来のお付き合いをさせて頂いている武内社長が経営する武内工業所、東京カッパ、協賛会の社内研修旅行に参加させて頂いた。武内工業所は皆さんが御存知の様に、タクシーの社名灯ではダントツのシェアを誇る創業80年の老舗の会社だが、実は武内グループの社内旅行も今回で32回を数える。先代の故武内金弥会長の頃より、研修と社員の慰労のために中味の濃い社員旅行を継続してこられていた。たまたま現武内昭一社長に知己を得て、お付き合い合わせて貰うことになり、この社員研修旅行にもチャッカリ参加させて頂くようになってからすでに10回を超える。武内会長のお仕事関係からかタイ各地への旅行が多かったが、ベトナムやインドネシア、フィリピン、そして時には沖縄や秋田など国内旅行も組み込まれた。

そして、武内会長、武内社長の主催する旅行のスタート時には個々人に、メッセージが書かれ、真新しい現地のお札が入った祝儀袋が手渡された。また驚いた事に社員でも無い私も頂き、ひどく恐縮したものである。そしてどの旅行も、事前に十分に企画が練られ、準備され、まるで修学旅行の様に、現地事情を案内する手作りのしおりやら、旅行の小物が準備される。まさに社員の為の、社員参加型のお祭りのような旅行である。食事やホテルについても社員の人が十二分に感動し、満足するよう細かな配慮がなされる。旅の最後には飛行場での解散では無く、旅の終わりを締め括る打ち上



## 清野吉光氏のコラム 第29回

### 団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

## 「良い会社とは？」

げ会が行われる。さらに3か月後には旅行の折に撮影されたビデオや写真を編集し、旅の思い出を皆で振り返るビデオ上映会が行われる。社員旅行をその準備、遂行、そして反省・締め括りの一連のイベントとして捉えるならば、武内グループの社員旅行はまさに完璧で、アートとも呼べる。結果、会社にとってある意味一番必要な、強い共同体の磁場を作り出しているのではないかと思う。武内会長にしても武内社長にしても、社員旅行は単なる旅行では無く、ひとつの大きな経営課題として捉えているのではないかと感ずる事がある。経営者と社員、そして協賛会のメンバーの間に深い心遣いと非日常の経験の共有を通して、強い連帯の磁場を作り出す、それは日々の役割分担に基づく日常の仕事の中では、残念ながら作り出す事が難しい【祭り】の共有による深い人間関係の創出であり【物語】の共有である。ある意味ゲームンシャフト(共同社会)である日本の会社は、皆そう

した非日常の共有の場を持つていた。しかし欧米流の会社観が浸透する中で、会社もゲゼルシャフト(利益社会)として、単に労働を売り、対価として賃金を貰うだけの場という考え方が、経営者にも社員にも拡がってきた。したがって、社員旅行や運動会などダサくて、必要のない物、それより友人や家族との個人旅行やプライベートな時間を大事にしたいという考え方が、主流になって来ている。しかし真に戦闘力(ソリューション力)を持つ組織体としての会社は、その構成員の共同体としての強い磁場を持つ事を必須とする。個人の自立と主体性は、決してその所属する組織の共同体としての絆の強さと矛盾しない。極端な共同体従属主義と極端な個人主義は共に克服され、止揚されなければならない。自立した社員が経営者のビジョンの基に共に【祭り】を行う。まさに役割分担に基づく分業化された日常的な仕事さえ、ビジョンを共有することにより【お祭り】化され、社



員の人が共に【お祭り】を担うことによって、強い共同体として磁場を作り出す事が可能であり、その磁場がまたその組織（会社）を強くし、結果利益（目に見える報酬）にも還元していくという、弁証法的な善循環の螺旋構造的発展が可能だと思う。

### 初めての韓国旅行

この伝統ある旅行の32回目は、武内グループさんにとつては初めての韓国旅行であった。今回の旅行先については様々な縁に導かれて、今まで縁の無かった韓国に決まったようだ。しか

し【良き祭り】としての伝統は、しつかり引き継がれていたと思う。特にともすれば引き裂かれがちな日本と韓国の【縁】を、具体的な顔の見える世界で結ぶことができたのではないかと思う。「記号」の世界では日本と韓国はすぐいがみ合う。しかし実は顔のある具象の世界では、非常に親密な関係を作り出す。特に今回武内工業所に14年も勤める韓国人Pさんのお兄さんがソウル有数の繁華街で経営するカラオケスナックで、旅行に参加した全員が訪問し、現地の韓国のお客様たちとおおいに盛り上がった事は非常に印象的である。Pさんのお兄さんは8人兄弟の4番目だそうだが、美空ひばりの大ファンで、それが原因（かどうかは未確認だが…）で、半年前にカラオケスナックをはじめたらしい。店の常連のお客様も我々が日本人であるのにも拘わらず、そして日本の歌ばかり歌ったのにも拘わらず、非常にフレンドリーで、時に共に歌ったり踊ったりもした。つまり、ある意味我々

は場を共有し、時間を共有し、そして互いに「ある想い」共有したのだと思う。この共有は「反日や嫌韓」の記号の合唱の前には時に無力かもしれないが、しかし真実でもあり、また現実でもある。そしてまた武内グループの旅行参加者自身が、この韓国体験を共有したのである。体験の共有、とりわけ非日常的で感動に満ちた経験の共有は、共同体験者の間に絆を作る。良い会社とはもちろん良い製品を作り、収益を上げ、お客様から評価される会社という事になるが、それに加えて「目に見えない資産」を蓄積し、「目に見えない報酬」を与える事ができる会社ならば、より素晴らしい。多くの会社が経費削減やら社員個人の主義的志向の高まりの中で社員旅行をやめてしまう時代に、一貫して「社員の為のお祭り」としての社員旅行を、リーダーシップと細やかな気遣いの中で継続して来ている武内社長の意志に、改めて敬服する。オリジンも過去何度か社員旅行を行っているが、とて

もこのようなレベルではきていないし、時に社員の要望で社員旅行自体の中止を余儀なくされた事もある。もちろん、社員を非難するつもりはなく、【お祭り】としての社員旅行をビジョンとリーダーシップを持って組織しきれない経営者としての自分の不明を恥ずべきであろう。旅行を始めとする社内イベントは余暇でも、付け足してもなく、経営課題の重要なテーマとして位置付けなければならず、ある意味、会社観、社員観、仕事観にかかわる重要な思想的課題だと腹に据えないと、すくにめげてしま（ある意味日常のルーティンワークよりはるかに大変で負荷のかかる仕事かも知れない）、「ま、いいか！…」と安きに流れてしまっだろう。強い磁場を作り、第2次創業の理念を会社の中に浸透するためには「お祭り」を起すエネルギーと多くの社員の人を引き付ける磁場が不可欠である。武内グループの旅行参加で改めてそれを学んだ。

（2011年2月21日記）

プリンター一体型業務用アルコール測定器

**ALC-miniⅢ**

**¥83,000**より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！  
吹き込む・測定する・記録する、の  
カンタン3ステップアルコール測定！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込み お問い合わせ **株式会社 システムオリジン** Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。（事業用自動車総合安全プラン 2009）

**義務化**に向けて  
**備えの1台**です！

製造元 **TD 東海電子株式会社**  
http://www.tokai-denshi.co.jp